

新編水滸畫傳

七編

五



明 21  
875  
卷 65

新編水滸画傳卷之六拾五

東武 高井蘭山翁 譯編

明治三十二年  
十月十日  
購求

○夢昔月夜道君小遇

大尉高休深山泊の款待小依く。酩酊小及び。帰りなく云らるる。  
我昔日相撲と好く。終其術小達く。天下小就く一人小對小也。  
あふひ法豪傑の月小お授の上小ありや。虞後義け誇言と夢てん  
中ちゆう小惡あくと答こたへく。當山とうざん疎そ又また既すで知しる者ものカと云く他ほかと競あそふと上あり  
中ちゆう疏それせ。んゆゆがら老一人らういちにんもなり。其中そのちゆうあも未ま孰じやくかか。されよある  
夢昔むせきとや老らう近ちか來き來き代だい岳たけ廟ぼ小飲のみく。天下てんかと夢む双じゆうの上のうへと云いひ。頭かぶ壽ず小贏かち  
て名なと遠とほ近ちかは振ふひひとも。當山とうざん疎そ又また終つひく。催もよほくもけ位ゐの葉はいん  
ある知しくと未ま云いひも罷まりく。うらふも休やす衣い袂たもとと脱ぬ捨すく。確たしり玉たま燕つば香かと對あ

新編水滸画傳卷之六拾五

ほうと。一書相人と。屋よりれば。燕きこれとて。まじがんと。保りしり  
 ども。守保再三屋よりれば。燕き遂に衣被と服ぐ。をを。出。商人堂  
 弁お終く。お撲とゆめ。皆くお担く。え。う。が。燕き。あ。く。も。保が。胸  
 お著く。一折と折れ。い。も。保。忽ち。方と。翻。く。別れ。り。室。江。虞。復。義。一  
 同。お。お。く。も。を。射。と。投。け。起。し。お。ま。あ。あ。く。を。う。ら。い。今。日。を。射。内。子。研  
 う。ひ。い。ん。ぞ。お。撲。お。贏。ま。あ。り。あ。ん。や。先。席。ま。入。り。再。び。内。と。破。久  
 と。と。子。と。推。考。く。考。よ。ま。入。り。あ。も。も。保。い。自。り。保。不。保。の。保。お。い。ん。ま。り。り。  
 室。江。又。益。と。改。め。く。飲。砂。と。信。く。日。已。お。室。江。夜。を。園。わ。り。し。か。室。江  
 自。り。も。保。と。延。て。後。き。お。歌。せ。け。り。聖。日。室。江。又。酒。毒。と。殺。け。く。も  
 保。と。の。て。な。り。る。知。よ。も。保。已。お。別。道。と。告。ぐ。於。お。同。人。と。破。け。け  
 れ。ば。室。江。が。云。来。り。首。て。吳。ん。あ。あ。る。お。何。の。あ。ま。同。人。と。破。け。り。あ。

若一點も偽め。天の四封と。保。免。と。免。る。ま。と。保。ひ。と。立。け  
 れ。も。保。を。と。す。く。云。う。ん。是。ち。止。月。く。我。と。同。く。ら。り。我。口。く。春。つ  
 と。遂。而。赦。免。の。義。と。細。入。べ。く。恙。遠。愛。と。と。あ。り。つ。子。速。射。と。被。て。お  
 と。陰。着。の。り。お。さ。び。で。是。り。尚。疑。い。り。り。げ。度。活。投。れ。る。保  
 お。と。山。跡。お。あ。り。お。と。れ。と。人。質。と。り。人。室。江。お。射。し。く。を。射。い。る  
 胡。廷。の。ま。あ。り。れ。ば。定。く。虚。を。あ。る。べ。く。何。ぞ。必。し。も。人。質。と。止。免。ん  
 や。ま。あ。り。ま。あ。り。義。の。ん。と。思。い。ご。ん。ま。我。山。跡。の。豪。傑。と。う。く。象。お  
 攻。入。り。今。日。依。約。お。別。り。す。再。び。山。跡。の。伴。人。と。堂。と。友。と。より。安。く。  
 我。等。皆。お。あ。り。と。思。入。の。も。て。胡。廷。の。友。人。の。犯。し。凌。ぐ。と。な。り。し。む。縦。ひ  
 詔。令。あ。も。せ。よ。接。倫。の。と。な。り。く。控。威。と。す。く。厚。伏。り。め。人。と。有。と。保。山  
 泊。一。統。會。と。每。も。保。す。者。一。人。も。あ。り。を。射。我。が。ん。被。と。暴。く。の。ひ。て。御

執成と新入といふ。他へ先教日還留あり。体名く一人とをけ日也又  
夜不入と飲砂となく。いふ此の日は体又海三別と昔とある。いふ  
ふともをさぐれば。室に教く。魚の子速妻を後。別の不忠と勅る。他が  
云法豪傑の因。維くとも。我ははく。ありの久。我はらよ。引く天子よ  
又え。なり。別。是下。ホの忠。あると。と。詳。又。奏。使。す。へ。室。に。け。云。と  
す。く。大。小。を。い。兵。用。と。も。儀。く。維。と。も。一。て。可。な。ん。や。と。同。る  
お。兵。用。が。云。聖。子。高。生。蕭。漢。は。洪。叶。子。樂。和。と。お。編。く。巻。け。べ。と。  
己。は。儀。を。一。し。る。し。ぶ。を。耐。又。い。と。我。己。は。豪。傑。ホ。の。新。と。清。一。上  
へ。聞。系。係。と。山。陳。ホ。留。め。人。質。と。せん。よ。必。ど。これ。と。解。一。の。人。と。な  
う。れ。室。に。け。云。と。す。く。首。任。ひ。種。く。孫。物。と。ま。ひ。く。食。後。一。お。室。日。子  
天。ホ。室。に。吳。軍。二。十。餘。結。と。引。つ。れ。を。耐。並。お。法。の。都。度。使。と。送。つ。て。

金沙灘ホあり。恭しく。体。お。別。れ。く。山。陳。ホ。同。り。り。る。を。耐。い。体。人  
と。せ。く。梁。山。泊。と。離。れ。海。呂。ホ。同。り。し。ぶ。張。を。守。并。お。周。昂。王。煥。項。え  
法。張。完。ホ。始。く。城。外。ホ。出。く。ね。速。へ。之。を。体。が。恙。な。紅。を。穿。く。み。なる。を  
右。尉。己。お。城。中。ホ。入。く。二。三。日。還。留。一。別。三。軍。ホ。号。令。と。傳。へ。法。前。度  
使。と。その。お。云。と。い。く。海。呂。城。と。お。出。来。系。と。う。て。進。養。は。け。時。來  
江。と。吳。用。お。同。く。云。ら。れ。を。体。り。於。お。同。り。な。お。御。赦。免。の。と。果。一  
て。個。べ。と。や。吳。用。お。笑。く。い。く。我。曾。く。を。体。の。相。と。と。く。お。蛇。目。蛇。形  
あり。是。別。義。と。忘。れ。恩。と。持。く。魏。表。お。現。る。彼。己。お。若。干。の。人。と。失  
ひ。し。ふ。必。給。と。れ。と。着。く。虛。名。と。據。へ。蕭。漢。樂。和。と。も。唯。己。が。お。お。面。面  
天子。お。見。え。く。めん。と。着。く。これ。あ。れ。お。御。赦。免。の。と。と。お。ひ。め。り。く。ら。し  
く。仲。力。と。勞。そ。の。と。た。く。ん。梁。山。泊。云。己。お。かく。の。と。く。ん。人。と。又。是。と。い。く



大尉高球  
赤青相撲と  
挑て倒る

新編水滸畫傳卷之六拾五

せんや。兵用云。聰明伶俐人。小務なたる者。お人と擇出。多く金銀  
 と與へ。於よを。何とて因縁とおゆせ。け度のこと。お奉り申す。彼  
 こそ。お。自。藏。以。と。被。以。て。遂。お。奉。り。申。す。べ。し。け。度。の。と。  
 必。ど。個。り。ん。と。後。一。つ。処。お。燕。喜。を。お。せ。し。め。云。ら。る。れ。去。年。宋。忠。の。地  
 へ。李。師。く。が。家。の。約。し。待。李。達。大。と。放。て。李。師。く。が。必。で。燒。ら。れ。ば。李。師  
 く。之。を。因。心。我。等。と。恨。む。べ。し。れ。ば。け。度。又。多。く。金。銀。と。送。り。彼。と  
 於。彼。因。悪。と。忘。れ。て。我。等。の。為。お。置。し。帝。へ。奏。す。べ。し。恐。ろ。う。は。是。よ  
 して。周。縁。を。す。い。さ。ふ。宋。又。宋。お。地。を。計。と。け。入。り。宋。江。が。云。汝  
 け。度。宋。系。お。行。ん。と。を。危。ら。し。め。早。ま。い。ら。あ。ん。と。も。あ。ど。後。と。交。せ  
 ざる。知。ふ。戴。宗。を。と。せ。し。め。宋。若。く。宋。系。お。地。を。計。と。け。入。り。宋。若。く。宋。系  
 け。度。人。と。や。ら。る。け。時。又。林。機。軍。師。宋。若。く。宋。系。を。と。せ。し。め。云。ら。る。れ。宋。若。く。宋。系。若。日。日

美。以。と。較。す。の。い。一。時。宿。を。尉。お。遇。り。し。思。と。あ。り。い。ひ。つ。つ。お。何。ぞ。け  
 人。と。較。す。の。い。や。け。度。相。を。尉。お。仁。心。お。人。な。れ。ば。宜。し。く。奏。す。べ。し。よ  
 と。ら。べ。し。宋。江。を。と。算。し。九。天。玄。女。の。洞。お。遇。宿。重。々。喜。と。あ。ら。は。け。宿  
 右。尉。の。死。の。上。お。後。さ。る。と。り。や。あ。ん。と。も。彼。等。宋。系。と。た。義。孝。お。邀。へ。宋  
 江。を。お。同。じ。の。間。相。を。尉。お。系。と。識。法。の。い。や。や。煥。々。喜。と。云。宿  
 右。尉。お。系。と。い。は。學。の。朋。友。な。り。故。人。お。尉。の。位。お。昇。て。却。々。帝。の  
 御。前。お。け。り。を。賢。の。譽。を。お。れ。仁。義。の。士。な。り。宋。江。が。云。私。お。慮。ら。ふ  
 右。尉。お。尉。お。同。じ。の。間。相。を。尉。お。系。と。識。法。の。い。や。や。煥。々。喜。と。云。宿  
 べ。し。是。お。尉。を。尉。と。較。す。の。教。免。の。と。を。於。け。し。と。人。と。效。以。け。し。宿  
 尉。お。系。と。知。人。な。れ。ば。情。と。お。ゆ。め。り。や。あ。ん。と。も。宋。系。を。お。て。云。ら。る  
 け。度。尉。お。尉。お。同。じ。の。間。相。を。尉。お。系。と。識。法。の。い。や。や。煥。々。喜。と。云。宿  
 け。度。尉。お。尉。お。同。じ。の。間。相。を。尉。お。系。と。識。法。の。い。や。や。煥。々。喜。と。云。宿  
 け。度。尉。お。尉。お。同。じ。の。間。相。を。尉。お。系。と。識。法。の。い。や。や。煥。々。喜。と。云。宿

大子收ひ先九天玄女と申して、截とおぼせり。上へ大者の截とゆへり  
 しるべき事、先せんが、書簡と申へし。おのれの中、金銀とせり。截字燕  
 子と申す。東家よむる日、おのれも、保比半とゆへり。と、今、いふべし。お人  
 の次、飲、命と申す。おのれ、友の形、お出立、け、日、山と下り、お、東、家、と  
 申入、ご、を、奪、ひ、後、と、日、お、後、ご、を、奪、ひ、お、東、家、お、お、て、百、寿、の  
 より、城、お、入、ん、と、申、知、お、城、つ、と、申、お、下、友、せ、お、人、と、指、り、と、申、お、い、や  
 と、同、れ、い、お、燕、子、の、後、と、使、く、と、申、お、是、下、お、我、と、申、お、い、う、ん、下、友、せ  
 ぐ、お、梁、山、泊、の、盜、賊、城、中、に、お、入、ん、と、申、お、城、の、お、入、維、お、し、  
 ば、緊、し、く、改、べ、し、と、申、お、用、封、府、の、位、と、申、お、如、く、改、む、と、申、  
 考、お、い、と、お、い、ひ、と、申、お、は、ら、い、て、お、別、お、る、人、な、し、ん、お、何、お、自、家、の、お、  
 と、截、は、ご、ら、や、お、我、お、お、人、の、知、ら、し、と、申、お、用、封、府、お、お、小、事、と、申、お、け、い、

と、お、入、と、申、と、幾、万、遍、と、申、と、お、知、お、汝、只、管、我、家、と、申、お、採、ら、ん、よ、う、梁、山、泊、の  
 城、お、お、と、待、て、緊、く、指、ら、べ、し、お、汝、眼、お、わ、い、と、申、お、是、と、申、よ、と、申、お、縁、と、申、お、我、や、お、  
 けん、お、云、文、と、申、お、し、て、お、下、友、お、お、入、ん、と、申、お、い、れ、べ、し、お、下、友、お、お、と、申、  
 只、下、お、人、果、し、て、お、封、府、の、人、な、し、ん、お、速、お、入、り、お、い、れ、お、人、と、申、お、  
 於、く、改、と、申、お、お、申、お、先、け、の、ど、く、同、く、と、申、お、必、ど、恨、と、申、お、お、と、申、  
 燕、子、お、お、び、云、文、と、申、お、お、申、お、入、お、裁、字、と、申、お、呵、く、と、申、お、城、中、お、お、入、お、  
 府、の、お、  
 困、人、の、形、お、お、お、お、一、色、の、金、銀、と、申、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、  
 昨、く、お、家、お、任、て、大、半、と、申、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、  
 お、の、潤、き、と、申、お、  
 縁、宿、と、申、お、

焼れし後、乃、建つるとして、門戸、樓閣、前より、由、あど、蓋、蒸、さ、き、こ  
 小、屋、と、掲げ、く、用、は、入、由、小、窓、座、の前、小、正、と、云、う、迎、と、云、う、小、佳、幸、韻、郁  
 として、乃、あ、な、る、ぬ、光、氣、な、る、燕、さ、ぎ、候、ひ、け、ら、知、小、一、人、の、小、二、板、出、て、向  
 け、ら、の、ま、窓、ハ、何、小、の、と、云、う、け、知、小、あ、り、ま、や、燕、さ、ぎ、を、と、云、く、我、ハ、只  
 幸、老、母、ハ、え、え、ん、お、け、知、小、あ、り、汝、子、く、入、く、幸、老、母、小、正、と、告、ぐ、小  
 三、板、け、言、と、ま、て、用、ハ、入、列、幸、老、母、ハ、告、ぐ、ら、ん、老、母、子、進、出、く、燕、さ、ぎ、を  
 見、忽、ち、又、小、驚、て、云、汝、い、ん、と、又、我、あ、は、ま、む、る、や、燕、さ、ぎ、が、云、討、る、と、勿  
 れ、我、今、幸、老、母、く、よ、い、ん、と、汝、公、と、あ、り、け、ら、の、娘、子、小、遇、し、め、人、幸、老  
 母、が、云、汝、去、年、我、家、小、来、く、家、と、焼、今、父、伯、の、と、あ、り、や、進、子、く、れ、と  
 汝、ハ、燕、さ、ぎ、が、云、幸、老、母、子、知、ら、ひ、分、け、我、具、小、半、と、汝、い、ん、幸、老、母、く、も  
 窓、の、下、小、生、く、け、云、と、汝、知、洋、く、汝、く、と、出、来、る、燕、さ、ぎ、と、れ、と、云、て、去、

ぞ、お、と、な、う、り、れ、が、幸、老、母、く、も、意、は、れ、と、遠、く、坐、己、小、色、り、し、知、小、燕  
 さ、ぎ、は、く、く、云、り、夫、去、年、ハ、身、て、ま、宅、と、潤、く、け、能、を、怪、く、汝、幸、老、母、  
 云、汝、去、年、彼、山、東、の、窓、と、引、て、我、家、小、い、り、遂、小、火、と、放、つ、て、帝、と、驚、  
 し、め、た、り、我、窓、獨、ひ、火、ひ、な、り、と、云、汝、乃、云、今、色、と、以、く、奏、告、し、ら、る、を  
 獨、と、免、れ、と、半、半、な、り、お、統、く、ど、ん、ハ、豈、と、今、日、と、保、ん、や、彼、日、山、東、の  
 窓、が、燃、り、し、火、の、門、ハ、六、六、雁、行、連、ハ、九、只、等、金、雞、消、息、と、云、二、句、あ、り、我  
 等、と、け、去、と、焼、さ、げ、己、小、同、ん、と、欺、小、帝、の、云、御、と、告、く、九、慌、し、く  
 走、り、お、く、汝、小、さ、ま、と、向、け、今、小、終、て、疑、ひ、さ、小、情、さ、る、小、汝、又、来、る、事、と  
 意、ひ、こ、わ、し、も、藏、さ、れ、彼、窓、小、半、と、洋、よ、告、お、せ、い、ら、一、点、お、て、も、偽、ら  
 い、我、父、し、く、汝、と、思、ふ、燕、さ、ぎ、が、云、我、今、父、小、依、と、告、ぐ、と、洋、子、汝、い、ん、小、娘  
 子、必、に、驚、さ、り、人、と、な、ら、ん、ら、ん、一、上、座、小、坐、し、く、る、面、を、思、さ、小、漢、子、ハ、梁



山泊第一の次は呼保義家流にぞい望し〜る酒色白き牡牛の鼎  
 世宗が子孫小徒風は赤きかり。門前小生〜美人の同伴一人の伴は  
 保義家一人の黒徒風も違なり。家又法間と云〜と偽るるが實は娘  
 子見  
 悪書と号しふ小系大名府の者なり。宋江吉本け知おきて娘を見  
 ころふ。毛頭も親業とあるおあつて何とぞ娘子の同縁とれく。銭幣  
 皆忠義の志あることと天子小養官〜所教免のたとひ甘んがなり。  
 今朝廷の奸臣乃不齒く。後接を推ひ擡は賢徳と塞く。情  
 しくよふ達するを能く。是も依く。娘子の同縁とれんと欲〜。宋江自  
 ひ知お身し知お心は獨と惹出〜。娘子と驚〜。宋江はの心  
 のて取〜。思ひは度又糸と考〜。これ物と送りける。お怪少〜  
 と〜。是と笑納〜。宋江が収びこれお〜。とあり〜。とあり〜。

一色の人金銀と知出〜。李師〜。前〜。同〜。彼老母お干の金  
 浪と〜。中お収び〜。子連とれと收め〜。慈と後堂お邀〜。義  
 と〜。懇お答〜。李師〜。自〜。懇懇お管待〜。慈と謝〜  
 云。未の死お到る罪人なるふ。豈敢〜。娘子の款待と尋〜。んや。李師〜  
 が云。慈言何ぞ強邊〜。んや。宋江泊の人〜。お放〜。義士〜。と〜。及〜  
 宋江。胡廷小賢臣ある。宋江公おのこと。お敵軍〜。連〜。水泊  
 小接ひ〜。おなり。徹お情〜。義士〜。と〜。憐〜。と〜。慈とこれ  
 と〜。中お収び。又告〜。云〜。向〜。お度〜。御教免の招書。何り  
 一〜。宋江の同縁。お一云。思はの〜。お刺。御湯の〜。お村。お子  
 換〜。人と欺〜。お後。又招書。何り。お妙。お肝。要の。一句。と。後。破。除  
 宋江。盧俊。義。亦。大小。人。所。犯。過。惡。並。與。赦。免。す。と。云。句。と。分。く。除。宋

新編水滸書傳卷之六拾五

江と傍と沿書と中後しゆ。法政次皆是と傍く。未だ朝廷は敵明也。  
 向ふも童樞密とお戦て。只あ疎の月小夜多多く付た童樞密と逃  
 散しける。そ次ふも耐成て水城より攻められども。是又三疎の月小夜く  
 依りて対捕。も耐と生提しり。法政を弟は是と教書せりし。さる  
 右耐大お収び別誓と立て云らる。我は小同く。子迷士弟小夜ゆじ。所  
 教次の養と伺へ。さる。友人の政次と伴んと。蕭條業和友政次を  
 引くゆ糸し。梁山泊へ生提し。依りて皆免し。誓しと。も耐は  
 他扱も人質小夜。誓しと。さる。と。皆送り同と。及く。皆一人を  
 是。此。ぬ。よ。と。誓し。梁山泊。よ。止。め。皆。係。系。あり。し。が。右。ぐ。の。人。あ。人  
 の。次。郎。も。己。が。家。小。夜。く。未。だ。山。疎。も。入。ら。れ。け。度。軍。小。夜。負。子。有  
 の。人。も。と。夫。ひ。し。と。私。小。これ。と。誓し。天子と。敢。く。と。覺。へ。り。李。師。く

が云。も耐多くの人をも夫ひしといんを敢て天子を殺せんや。今も  
 右耐は虚病と搦へ。家も生と。我老早これとかれり。燕公先酒と砂  
 て。夜と。懸。め。り。人。げ。と。お。放。く。い。我。臣。しく。強。せん。と。云。れ。ば。燕。公。これ。を  
 附して云。系天情内と飲と能。飲。く。ば。娘子内と焼し。人。李。師。く  
 が云。遠。海。あり。り。ひ。く。皆。殺。ひ。ん。先。酒。と。め。り。人。と。告。ふ。初。れ。ば。燕  
 公。辭。する。と。能。ば。嘗。作。く。と。さ。る。小。飲。洲。數。盡。よ。初。り。り。り。ば。李。師。く。と  
 系風流の妓女。お性の人なれば。燕公が人物の風雅なりと。春人  
 と。初。し。男。戲。と。云。ら。る。小。燕。公。の。恰。削。なる。若。公。を。ば。や。李。師。く。が。ん  
 初。と。事。し。さ。る。小。夜。く。ん。と。初。さ。る。弟。公。明。の。大。半。と。誤。人。と。思。ひ。あ  
 情。ぶ。初。さ。る。系。公。の。か。り。り。り。り。李。師。く。が。の。さ。る。燕。公。の。情。を。小。遊。し  
 り。んと。か。り。り。小。蕭。也。も。吹。い。と。ん。や。燕。公。が。云。系。師。く。吹。強。飲。舞。と。誓。し

新編水滸畫傳卷之六拾五

八

ぐいもいんぞ娘子の前と弄むんや。李卿子が云我れ一鼓と吹ひりん。
 云と吹ひりん。別業と吹て吹ひりん。流石の上と吹へく。雲と吹ひり
 石と製の吹ひりし。燕喜大お唱。余おりり。李卿く己お吹。燕喜と
 燕喜おふへく。云々。燕喜由一曲吹ひり。我お吹。あの人。燕喜これと吹
 てん中お忠。積今蕭と吹て。李卿くがん。合ひかた。常々明のた。
 と果り。お必。あう。ん。と。遠お蕭と吹。一曲吹ひり。清雅。
 て。文多。り。李卿く。吹く。大。お。燕喜。一。燕喜。来。法。
 りひね。及。及。一。も。も。か。を。い。あ。が。と。思。ひ。お。は。お。な。き。よ。の。
 ち。と。再。三。再。四。これ。と。鼓。一。又。吹。と。唱。ひ。燕喜。よ。吹。ひ。り。果。一。
 其。ち。の。唱。ぐ。ど。り。や。々。修。顔。悠。揚。と。り。ぶ。燕喜。の。吹。く。威。歌。一。も。も。一。
 曲。唱。ひ。り。ん。と。々。あ。ら。喉。と。完。ひ。く。唱。ひ。り。り。お。と。韻。あ。と。流。り。り。れ。が

李卿く。燕喜。一。大。鼓。と。吹。く。燕喜。お。初。め。り。り。お。夢。も。これ。と。附。一。
 連。の。數。五。と。吹。ひ。己。お。研。か。り。し。時。李卿く。お。官。燕喜。よ。戯。れ。お。燕喜
 い。唯。吹。と。吹。ひ。燕喜。と。々。李卿く。又。喉。と。會。ぐ。云。り。り。燕喜。と
 一。歩。お。花。と。刺。一。ひ。ぬ。と。吹。り。り。お。吹。く。これ。と。ん。せ。り。め。り。人。燕喜。
 笑。く。云。ま。が。分。祥。お。初。め。り。り。花。と。刺。一。り。り。堂。あ。へ。く。娘。子。よ
 こ。せ。ん。と。せ。ん。や。李卿く。ぐ。燕喜。何。お。懸。懸。の。と。と。云。り。り。や。速。ま。ん。世
 め。り。人。と。吹。り。り。お。屋。ぐ。れ。が。燕喜。己。と。と。ど。夜。後。と。脱。で。こ。せ。ん。お。李
 卿。これ。と。ん。と。大。ひ。お。吹。ひ。吹。く。と。玉。子。と。吹。く。燕喜。が。分。と。摸。け
 れ。が。燕喜。懐。く。性。と。お。後。と。と。一。再。び。恭。一。一。望。一。お。り。り。李卿く。又
 酒。と。吹。く。燕喜。お。初。め。り。り。お。初。め。り。り。お。初。め。り。り。お。初。め。り。り。お。初。め。り。り。
 お。忠。の。李卿く。お。再。三。再。四。と。吹。ひ。り。り。又。解。す。と。と。解。す。と。と。解。す。と。と。

李柳  
角吹  
酒  
勸



女  
馬  
古  
馬

新編水滸書傳卷之六拾五

新編水滸書傳卷之六拾五

頭どめ計と云く。け半と遊んと。劉李脚く小回く云々。娘子の暮春  
 の幾何ぞや。李脚く昔へく云。今年二十七歳なり。燕喜は今年  
 二十歳なり。娘子も二才の才なり。娘子も素を憐しむる人なり。わ  
 我娘子をねく姐とせん。娘子も又我を弟とせん。人を劉方と翻し。云  
 ぞ李脚くとねく。燕喜の尋常の人なり。け時李脚く小巻て。  
 宋公明が大軍とも。張公もれせ。燕喜は。ん。浪石のどと。まの豪傑なれ  
 ば。酒もふ。かんと。礼を譲よ。あ。か。くのどと。仁義の正と云く。李脚くが  
 んと抑へり。燕喜は。英傑なり。燕喜又李老母と逢へ。おと。し  
 親子の物とぞ。誓ひり。己小燕喜の李脚く小待して。回くと欲し。れ  
 ば。李脚く云。燕喜。客屋にお滞り。あ。えん。より。我。お。歌。こ。身。燕喜。が。娘  
 子。既。お。法。情。と。そ。く。人。上。の。我。先。法。弟。お。助。り。仍。李。と。知。く。女。刻。來。る

べ。李脚く云。我。お。汝。と。待。ん。づ。る。一。刻。も。あ。く。あ。り。の。人。燕喜。が。云。  
 我。縁。宿。の。は。処。より。遠。く。ぞ。れ。が。早。速。來。り。け。ん。と。て。遂。お。別。れ。て。結  
 宿。お。ゆ。り。始。終。の。事。と。戴。家。お。焼。り。せ。れ。れ。戴。家。欣。悦。す。ま。ふ。か。く  
 の。ど。く。ば。これ。十。台。の。幸。ひ。く。焼。れ。せ。燕。公。ん。と。收。めて。酒。を。と。も。り。あ。り  
 と。お。お。く。ハ。難。く。人。燕。喜。が。云。大。丈。丈。ま。く。人。老。母。酒。を。ふ。ん。と。れ  
 され。今。と。あ。れ。あ。い。禽。獸。と。ね。ほ。ぐ。素。り。名。義。の。人。あ。い。は。れ。が。劍  
 戟。の。下。よ。去。す。べ。戴。家。お。笑。く。云。大。丈。丈。何。ぞ。是。の。と。お。誓。て。立  
 け。や。あ。く。彼。處。お。住。く。大。丈。丈。と。成。控。り。け。り。人。若。古。尉。へ。送。る。と。向  
 とも。是。の。回。る。と。待。て。これ。と。ま。は。す。燕。喜。笑。て。可。なり。と。ほ。い。又。多  
 く。人。合。衆。と。あ。り。燕。喜。と。李。脚。く。が。家。お。入。り。劉。公。合。衆。と。二。つ。お。分。り。可  
 い。李。老。母。お。送。り。又。と。一。の。一。家。の。男。女。お。と。り。お。合。衆。大。お。候。ひ。て

蕙香を教ひし。け夜きひ天子の御恩ひき。先達く告あじ。
 蕙香これとす。李隆くふ侍てさる。娘子今晩候として天子と
 ぬせしめ。所赦免の詔書とす。おめあつ。娘子の御恩天
 地と仰。蕙香とほるまで。それとす。李隆くが。今晩汝と
 呼し。天子ふ見えし。めんと最易。汝平生の恩を。
 天子の御恩と慰められ。け。心赦免の詔書と求めん。是又難。
 まいとて。己ふ儀とす。天子の恩。侍居ら。一更の時。ふ。
 て。天子一人の小吏門と従へ。李隆くが。家の後門より。
 まひて。後堂ふ。入。り。李隆く。あ。り。も。美。中。小。
 と。連。く。も。種。の。法。相。と。執。と。許。益。と。初。め。れ。ば。天。子。
 かく。べ。し。て。宣。ひ。ら。る。汝。近。く。と。朕。が。ん。と。慰。ふ。け。時。

近く御前ふ候して。奏し。る。殿。下。小。連。し。も。思。多。く。い。へ。
 婢妻一人の表身。年久しく。介。心。小。流。落。て。あり。ける。今。日。婢。妻。
 小。能。り。何。と。ぞ。天。教。と。お。し。ま。う。ん。と。再。三。と。教。ひ。し。
 り。る。妻。小。彼。と。出。さ。ば。然。し。て。然。く。下。御。憐。愍。と。
 天子の宣く。汝が表身。と。を。な。す。朕。今。彼。不。遇。と。も。何。の。妨。あ。
 多。く。と。出。せ。と。勅。令。を。な。れ。ば。小。三。板。敷。と。蕙。香。と。引。て。御。前。
 蕙。香。己。小。天。子。と。相。し。ま。う。侍。小。疏。く。天。子。
 る。と。御。後。も。御。収。び。の。侍。ふ。え。く。を。ひ。し。
 蕙。香。小。蕭。と。吹。し。め。ら。る。天。子。御。威。収。ま。
 小。の。ひ。し。ば。蕙。香。を。侍。と。奏。し。ら。る。長。が。
 の。楚。曲。な。ら。ふ。い。ん。と。御。前。お。て。こ。れ。と。

朕私わが心こころ知しること必かならずびまること。鼓曲こくよくとも吹ふくんと懸んが為なり。汝おもも  
遠とほくも唱なへしと勅令し已まりしる。燕青えんせい儂ゆんと希とぬく。忽ち  
喉のどと完く。歎ひたる。其曲そのまがおのとく。

一別家郷音信杳百種想思腸断何時了。燕子不  
來花又老。一春瘦的腰兒小。薄倖郎君何日到。  
想自當初莫要相逢。好著我好夢欲成還又覺  
絲窓但覺賞聲曉。

莫も青せい已まり。歎ひる。天子てんしを韻の清きよととと吹せりひく。御おん歎なげび  
涙なみだりなく。再び歎ふべとう。勅令しよくれいをられ。燕青えんせい儂ゆんと希とぬく。又一また曲まがと唱へし。  
其曲そのまがおのとく。

聽哀告聽哀告。賤軀流落誰知道。誰知道極天

固地罪惡難分。顛倒有人提出火坑中。肝膽常  
存忠孝。常有忠孝。有朝須把大恩人報。

莫も青せい已まり。歎ひる。天子てんし大おほく好むこと。同どうじうり。汝おもも  
と唱ひぬる。燕青えんせい儂ゆんと希とぬく。地上ちじやうおもも。天  
子てんし無な疑ぎせりひく。中なかつ女によが胸中むねなかつのと伴ばんふへよ。朕は汝が為ふ。此  
と理をぞんん。燕青えんせい儂ゆんと希とぬく。臣已まり大罪ざいと犯す。胸中むねなかつの  
と御前ごぜんおもも奏す。天子の宮に汝おもも。朕は汝と免さん。汝  
子こく。妻曲さいよくと奏す。臣已まり。燕青えんせい儂ゆんと希とぬく。再び奏す。其曲そのまがおのとく  
時ときより江湖かうこおもも。山東さんとうに流落りゅうらくす。一人ひとの高客かうかくおもも。梁山りやうざん泊はく  
の下をさりし。越こえ。彼山かのやまの豪傑ごうかくおもも。捕れ。三年さんねん竹たけり。滌笛せきふえと。梁山りやうざん泊はく  
陳ちん中ちゆうちゆうおもも。今日けふ偶ぐう死しと死れ。於こ。同じうしう。未いま敢あやと街と奏す。臣已まり。大恩おんじん人にん報ほう。

其故いふんとすれば人をもて片と扱へんは必也。分悦さるる能はれり。此命の死と波えんとを思はれて。李隆くも又奏しを云。彼者ぐん中。只け賣の苦んぐ。臣夜んと安んじ。陛下御憐と云。せ。みへ。天子宣く汝の李隆くが為る。表身なれば。彼を救く。汝と授んや。汝必とんと安んじ。街と奇きせよ。け時。莫書。暗ふ李隆く。とを。眼し。と。李隆く。子くも。と。又天子小奏しを云。陛下。宿筆も。即赦免の勅書と書せり。彼者小揚りや。婢妻。安法すべし。天子宣く。け。朕が玉京も。わ。い。と。召去と書んや。李隆く。が。陛下。と。何ぞ玉京と。痛んや。と。再三再四と。聲し。奏し。れば。帝已と。と。御。と。燕青が名と。向う。燕青が。名。が。姓名の。燕青と。号。天子。と。波。い。

て。子。御。筆。と。一紙の。詔書と。と。日く。神霄玉府。真主。宣。和。羽。士。虚。清。道。君。皇。帝。特。赦。莫。青。本。死。一。應。無。罪。諸。司。不。許。拿。問。天子。已。召。去。と。と。其。下。又。書。判。と。押。く。莫。青。は。揚。り。し。燕。青。原。拜。し。と。西。恩。と。附。し。も。李。隆。く。も。何。れ。お。ひ。は。燕。青。と。上。恩。と。附。し。も。恨。と。恨。と。天子。又。燕。青。小。問。ひ。の。汝。已。は。梁山泊。小。を。あ。び。彼。処。の。と。要。細。小。初。う。人。詳。小。奏。せ。ん。や。莫。青。と。漢。で。奏。し。る。ハ。宋。江。の。法。の。豪。傑。也。旗。の。上。は。替。日。天。行。道。と。云。四。字。と。書。く。大。義。と。も。救。く。刑。死。と。犯。さ。る。良。氏。と。害。さ。る。只。監。官。と。吏。後。の。事。と。教。し。も。御。赦。免。の。詔。と。待。て。小。家。の。為。よ。力。と。竭。え。ん。と。欲。は。天子。宣。く。朕。向。は。兩。度。す。で。赦。免。の。詔。と。傳。し。れ。せ。



皆朕は違ふ旨に宣教す國家の爲に力と竭さんや黄青奏し  
 てつう幼の詔書あひ一点も思は憐愍の何れす要は権威のこを遣  
 へ。豪傑と稱さんとし剽劫場の御酒と村酒は擄くまど歎くころを  
 宋江未放す。飯吹せはま次の詔書より行要の一向と續破る。宋江と  
 除て外の輩と御教せよ。後更らるれば時由又半度して飯吹  
 せは初めを極密莫大の守ると引。八海の防監八人も。許多の物かと  
 以て童貫と助けしめられ梁山泊に推考られせ。此の間の間にお  
 負ハ海のお成に任せ捕れ。そのやうにさすを失人。宋江の特と童貫  
 と付留させ命斗と知り。遠く逃飯り。そ次は多ち射大軍と引く  
 劣あり。天下の百姓と役よつう。若干の海賊船と作ら。此時由十  
 節度使の十大将小軍と投げしめ大軍水陸より並ぶ改られせ。是又

三疎の間にお負十節度使付死生授。その時か智の軍おせ。う血人  
 のと知り同り。数万の人は。まねと一時お失ひ。刻も。梁山泊に生授  
 御まを。宋江は。体へ。お及ば。生授し。法を。皆。御命し。宋江は。御ま  
 對し。御教。免の。義と。お持。え。と。頼。ら。う。ふ。も。体。子。逃。れ。會。し。あ。人。の。取  
 然。と。は。ひ。同。り。梁。山。泊。に。入。人。質。ら。う。と。く。參。謀。は。煙。素。と。あ。め。を。ま  
 天子。獻。ぜ。ら。う。と。く。大。お。嘆。息。し。ら。う。ひ。朕。馬。ぞ。け。と。と。知。人。や。童。貫。の。軍  
 も。宋。江。よ。う。放。す。傷。人。者。多。き。由。を。告。げ。軍。と。收。め。飯。吹。し。ら。う。と。奏  
 し。も。体。は。又。病。と。な。り。征。伐。せ。し。め。死。回。急。先。難。ひ。と。止。て。飯。吹。せ  
 う。と。奏。せ。ら。う。ひ。宋。江。何。ぞ。か。く。の。ど。く。朕。と。難。く。や。李。師。の。奏。し。と。云。踏  
 下。庭。を。明。か。ら。う。と。い。ふ。も。九。重。の。う。ら。れ。お。居。ら。う。ひ。田。急。長。間。の。と。と。知  
 り。ら。う。ひ。宋。江。却。て。奸。臣。あ。ら。う。と。思。は。れ。と。奏。せ。ら。う。天子。ま。ち。り。く



竹馬火許書傳卷之六十五



燕青道  
宿元景  
遇て轎上  
書と呈す

新編水滸畫傳卷之六十五

十一

羞嘆しひ。蒙きし事をも体が軍の次官常におつひにお義と思  
 へどもよふ速せらるる事。遂一明白奏せしむ。筆て半信と嘆  
 へらる。扱取も御文をね。蒙き取首して天子と極へ。遂に前  
 と退と天子の自ら。宰相と子と携て。麻の上よ登りひ。初より即  
 収ひの神ふくへさうひ。け夜め文の一点ふ。天子のや還音ありけ  
 れ。蒙きし私用をさく。宰相くお告く。再び龍名お同り。始終の  
 半。一戴宗よ告ぐね。戴宗大お収ひて云。是刻莫名の事。けよと  
 一刻もあく。宿を射よ書きと座くべ。蒙き取くをこと同り。西人  
 遂に結宿と出く。宿を射が彼の近辺よおりなり  
 戴宗計を定めて蕭愔と懸。愔といふ体と懸して蕭愔と  
 仍も知よ。宿を射の朝廷と退出して。己よけ出とさうし。蒙き取が云。

戴宗の先は知お立て。消息と待り人まへ候く。若く射おまてえんとて。  
 曲お跳く。橋の前よ流と書きと号し。さうし。備で中宿を射。射  
 て我彼おまて。とと遂お引く。彼おまじ。蒙き取のトおお  
 伏を宿を射。同く云。汝はわれの知より来。とや。蒙き日書て云。ま  
 山東より来。れり。別聞參條の書きと号し。さうし。宿を射。同く云  
 聞參條と。惟事は。や。我これと忘れり。蒙き取。善人とす。射せんく  
 書簡と扱。て。名知れんと。射と扱。別と名と。て。と。と。の  
 宿を射。と。准が。半。と。思ひ。一。お。我。と。一。お。ま。し。日。門。の。お。友  
 聞煥。ま。なり。し。もの。と。と。を。ま。よ。と。扱。く。これ。と。つ。る。と。書。お。曰  
 侍生聞煥。章。休。年。百。拜。奉。書。  
 太尉。思。相。釣。座。前。賤。子。自。醫。年。時。出。入。門。牆。三

十歳矣。昨蒙高殿師喚至軍前。奉謀大事。奈縁  
 勸諫不從。忠言不聽。三番敗績。言之甚羞。高太  
 尉與賤子一同被擄。陷于縲紲。義士宋公明寬  
 裕仁慈。不忍加害。則今高殿師帶領梁山蕭讓  
 樂和。赴京欲請招安。留賤子在此。實當萬望。思  
 相不惜齒牙。早晚於天子前題奏。早降招安之  
 典。俾令義士宋公明等早得釋罪。獲恩建功。立  
 業。非特國家之幸。甚實天下之幸。甚也。立功名  
 於萬古。見義勇於千年。救取賤子。實領再生之  
 賜。拂指奉々。垂昭察。不勝感激之至。  
 宣和四年春正月 日  
 聞煥章再拜奉 上

宿右尉書簡とて大少將とて別燕喜不問て云々  
 七や。燕喜言々云々。梁山泊の浪子燕喜と云々。昔日を尉美  
 別の廟小即代参ありし時。系數日を尉の左右小侍し。何ぞや。忘た  
 りや。宋江は。即教免のとのと云々。向ふ神明と祈。裁と求め  
 り。想若を尉小就く。即教免の裁と祈。必と吉左右ありんとの。の  
 明。小裁の面。小なれり。右尉り。肯て天子小奏し。あひて宋江が  
 飛と即教免。あせり。つら。梁山泊十万人。教奉て。右尉の存恩と求  
 じ。な。ん。ほ。の。怪。微。ら。と。つ。ご。も。宋。江。教。て。執。し。な。ら。と。を。後。と。用。成。  
 ころん。懐中より。一盆の珠玉と。お出。して。宿を尉小就。し。ころ。宿を尉  
 これと。收。し。ふ。燕。青。丈。小。恨。ん。ご。遂。小。列。せ。と。告。奉。び。戴。宗。と。共。小。旅。  
 宿。小。ゆ。り。強。く。ころ。の。半。已。小。次。分。り。と。云。思。好。と。い。へ。の。蕭。娘。樂。

和衣多保が家小をさすを是を憂ふべし。あつぱいかる計を以て救ひ  
 出さんや。戴宗が云我汝と信ふ又下友の形小出立てる保が家の前  
 小能細し。家人の出入を待多くの令浪と送り先消息と兼信し  
 小通せしめ。後計と能はず。慈喜け云小服し。兩人又衣裳と改  
 て下友の形小務ひ多く令浪と懐中して多保が家の前小出立  
 良久しく能細入や。あると付ひし知子年おかる。虞候の官門と出  
 て夢ちが前とさうらねの慈喜をさそおくれとけひらふ。彼虞候向  
 て云誰なれば。我とんれとけひらふや。我もく足下と誠徳は夢  
 ちが云。余虞候お世後活士とわり。芝菜坊の月お来りう人とて  
 三人せお入く。園子の上お坐し。戴宗と指さし。虞候お對して云  
 ど。年卒のともゆせ。向れ右耐梁山泊より誘ひひらる。お人の政

の月一人の樂和と中おかるが。け人のため親類これお依り何とぞ遇  
 んと欲し。特けけ迎よ来れし。虞候憐愍と重のひらる。言信と通  
 らるんや。彼虞候を其の神と云らる。汝お人いんぞけの下とて云  
 彼お人い。前堂の月お坐る。惟うり。善信と通せんや。時小戴宗一  
 從の大浪とわゆ。云らる。虞候の。樂和と引く。余小遇し。あめり。  
 我今け浪と送く。寸志のれと謝せん。虞候け大浪とんく。忽らんと  
 初し。やんらん。梁山泊より来り。ある。お人の。お室お。右耐の。件お。依り。  
 後園の月おあり。我今樂和と引く。汝お遇し。めん。必。ど。そ。浪。を。我  
 小送り。う。人。戴宗が云。汝何ぞ。再。三。の。云。よ。乃。ん。我。変。し。と。物。と。送。り。さ  
 者。よ。あ。は。は。汝。子。く。彼。と。引。く。出。り。人。彼。虞。候。中。お。收。び。汝。お。人。け。知  
 小。ま。く。ゆ。り。人。と。を。さ。そ。門。月。お。入。り。戴宗。慈喜。好。く。待。候。り。怒。り。

新編水滸畫傳卷之六十五

十九

彼虞候忙しく走り出く云先彼泥を我小へ人我己小案和と引  
 て。房間の内より来り。我案これと受て。燕者が耳に附如け々と低  
 て。彼泥と虞候小へられ。虞候根を得く大に収び。遂に藁を引  
 て。房子の内より出り。汝友人小く係作して立ち入り。人小をえんご  
 ばりしと大案あらん。燕者皆く時刻出ゆんを別案和お修て云  
 ころ。我戴案と針と能くして。是下友人と救ひ出さん。頼り用云  
 と。洞へり人案和が云我ら友人出く。後園の月よ立て。四方の壁又も  
 うれざる。後ゆん知なく。是下何おの針を。我案と救ひ出た  
 たりんや。燕者が云。壁の辺は樹木もや。壁の邊りぬ。大なる柳あり。  
 燕者が云。今宵四文の時分。我ニツの索と壁の月よ投入べし。是下お  
 人け索と柳のよは。柳を。おめく。索と強く。おめく。我ら友人は。又壁

の介不空く。強く索と引べく。まぶす時刻と。あやまちらうふたこと。約  
 と。是れ遂小おふり。案和の。後園の月よ入く。蕭條小びしと告げ  
 夜長時分。友人小く。壁の辺は。待長ら。知小。戴案燕者  
 時刻と差へど。壁の介は。右一の。索と持く。壁の月よ投入し。が  
 蕭條案和。小くと。柳の樹小。柳系。又索と握し。は。戴案燕者  
 者小任く。強く。蕭條案和。恰も。蜘蛛の網を。修て。右索と  
 引く。壁の介小出。遂に。地上より立ち上り。さふ。於て。四人。大に。収び。びよ  
 一列も。急く。山。跡。よ。同り。て。汝。を。すべし。と。城門の。辺。小。馳。け。り。

按ぶる。通俗。忠義。水滸。傳。小。び。燕。者。が。軟。自。の。字。と。是。の。字。と。し。  
 又。聞。煥。章。が。書。簡。附。仮。名。乱。雑。し。て。後。へ。う。ん。今。支。那。の。本。小。係。と

字と改づけまを明白の儀候共のり前巻の花巻が勅使と射殺す  
より此巻の初まの儀候共のり勅使の儀候共のり此巻の初まの儀候共のり  
と射殺されてのり王瑾が教ふ儀候共のり己が宿願と後破りしめられ  
け事候儀候共のり御教免と和持んと云天子の逐ふ  
令と云ふ儀候共のり生擒れ候儀候共のり威嚇候儀候共のり  
の分と和り教ふ儀候共のり此巻の初まの儀候共のり  
の分と和り教ふ儀候共のり此巻の初まの儀候共のり

新編水滸畫傳卷之六拾五

